

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 25 日現在

機関番号：34426

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26380414

研究課題名(和文) 東日本大震災復興と金融支援スキーム

研究課題名(英文) The Great East Japan Earthquake and the financial support schemes

研究代表者

松尾 順介 (Junsuke, Matsuo)

桃山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：00330340

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東日本大震災からの復興・復旧を目的とする、様々な金融支援スキームの有効性や成果について考察し、次の成果を得た。金融支援に関しては、量的にはある程度充足しているものの、各金融スキームがそれぞれの特色を生かした連携・協力関係を築くことができたとはいえない。クラウドファンディングについては、ファンド運営会社の迅速かつ柔軟な取り組みが見られた。この取組は、今後の指針となると考えられる。クラウドファンディングと地域金融機関とのシナジーが見出された。今後もクラウドファンディングのようなソーシャル・ファイナンスの役割が大きくなるものと予想される。

研究成果の概要(英文)：For the revival and restoration from the serious damage of the Great East Japan Earthquake, various financial support schemes were established. In this study, we examined the role and effect of these schemes and got the following conclusions.(1) Although these financial support schemes fulfilled quantitative capital needs for the revival and restoration to some extent, they could not build the cooperation and relation among them. (2) On crowdfunding, we found quick and flexible activities of the persons concerned and the quick introduction of fund schemes for the revival and restoration. (3) We find synergy effect between crowdfunding and regional financial institutions. This is a useful outcome for revival from disaster at various regions in future. We expect the role of social finance such as crowdfunding will increase in future.

研究分野：証券市場

キーワード：東日本大震災 金融支援スキーム クラウドファンディング 地域金融機関 投資ファンド

1. 研究開始当初の背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、死者15,883人、行方不明者2,676人、震災関連死2,688人、合計21,247人、建物の全壊126,458戸、半壊272,191戸、一部破壊741,684戸の被害を発生させ、その被害総額は、建築物等約10兆4000億円、ライフライン施設約1兆3000億円、社会基盤施設約2兆2000億円、農林水産関係約1兆9000億円、その他(文教、保険医療、福祉関係施設等)約1兆1000億円、総計16兆9000億円と推計されている(ただし、ここには原発関連の被害額は含まれていない)。

このような甚大な被害からの復興・復旧を目指して、様々な金融支援スキームが設立され、金融面からの支援体制の整備が進められた。これらには、公的および民間の金融支援スキームが含まれ、それぞれ特徴を有しており、関係者の努力が重ねられているものの、これらの取組の内容や特徴などが必ずしも被災地域の事業者などに十分周知されていないという状況があった。

2. 研究の目的

上記の事態を背景として、本研究では、下記の目的を設定した。

(1) 金融支援の取組が東日本大震災の復旧・復興にとって、量的・質的に十分なものであるかどうか、

(2) 被災企業もそれぞれに個別性があり、金融支援スキームの設計がそのような個別性に柔軟に対応できるかどうか、また金融支援スキームの担当者のマンパワーや専門性が十分対応できるかどうか、

(3) 事業計画の基盤となる面的かつ長期的な復興プランが導入・実施されるかどうか、である。

3. 研究の方法

上記の3つの目的に沿った調査・研究を、相互に関連付けながら同時並行的に進め、最終段階でその調査・研究をとりまとめ、政策提言を行う。その際の調査研究方法は、インタビュー調査、事例研究(ケーススタディ)およびデータ分析であり、研究者および実務家とのネットワークを最大限活用する。

4. 研究成果

上記の3つの研究目標に関して、それぞれ次の成果を得た。

(1) については、少なくとも量的には、一定程度支援は充足していると考えられる反面、各種の金融スキームがそれぞれの機能・特色を生かした連携関係を築くことができたとはいえない。むしろ各金融スキームが、それぞれ区々な取り組みを進めたという面が強く、この点は今後の災害復興を考える際の課題であろう。(2) については、すべての金融スキームを調査することはできなかったが、重点的に調査を行った、クラウドファンディングについては、ファンド運営会社の迅速かつ柔軟な取り組みが見られるとともに、災害復興を目的とするファンド・スキームが導入され、今後の指針となるものと思われる。(3) については、広範な被災地域において、一様ではないが、必ずしも面的・長期的な復興プランが導入されたとはいえない面もあり、評価が分かれるところである。この調査では、災害復興において、クラウドファンディングが一定の貢献を果たすことができるとともに、既存の金融スキーム、とりわけ地域金融機関とのシナジー性が見出されたことは、有意義な成果である。今後もクラウドファンディングのようなソーシャル・ファイナンスの役割が大きくなるものと予想され、被災実態に適合したスキーム面の工夫が望まれる。

ンディングについては、ファンド運営会社の迅速かつ柔軟な取り組みが見られるとともに、災害復興を目的とするファンド・スキームが導入され、今後の指針となるものと思われる。(3) については、広範な被災地域において、一様ではないが、必ずしも面的・長期的な復興プランが導入されたとはいえない面もあり、評価が分かれるところである。この調査では、災害復興において、クラウドファンディングが一定の貢献を果たすことができるとともに、既存の金融スキーム、とりわけ地域金融機関とのシナジー性が見出されたことは、有意義な成果である。今後もクラウドファンディングのようなソーシャル・ファイナンスの役割が大きくなるものと予想され、被災実態に適合したスキーム面の工夫が望まれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 25 件)

1. 松尾順介「将来株式取得略式契約スキーム(SAFE)とクラウドファンディング」『証研レポート』(日本証券経済研究所・大阪研究所) 査読無、No.1700、2017年2月、13~25頁

2. 松尾順介「ロカベスティングとスローマネー-資金の「地産地消」の取り組み」『証研レポート』(日本証券経済研究所・大阪研究所) 査読無、No.1699、2016年12月、1~17頁

3. 松尾順介「英国のクラウドファンディング市場」『証券経済研究』(日本証券経済研究所) 査読有、2016年12月、第96号、21~41頁

4. 中野瑞彦「対外M&Aの増大とメガ・バンクの展開」『経済』(新日本出版社) 査読無、No.254、2016年11月

5. 松尾順介「英国のソーシャルレンディング」『証研レポート』(日本証券経済研究所・大阪研究所) 査読無、No.1698、2016年10月、12~27頁

6. 松尾順介「クラウドファンディングと地域金融機関」『金融ジャーナル』(日本金融通信社) 査読無、719号、2016年5月、84~87頁

7. 松尾順介「クラウドファンディングの拡大と多様化」『証研レポート』(日本証券経済研究所・大阪研究所) 査読無、No.1695、2016年4月、9~21頁

8.中野瑞彦「金融機関への公的資金投入と金融システムの安定化問題」『経済経営論集』（桃山学院大学）査読無、第57巻3号、2016年3月

9.中野瑞彦「英国の住宅価格上昇と新たな金融危機の可能性」『立教経済学研究』（立教大学）査読無、第69巻第3号、2016年1月

10.松尾順介「クラウドファンディングの世界的趨勢」『証研レポート』（日本証券経済研究所・大阪研究所）査読無、No.1693、2015年12月、1～15頁

11.松尾順介「投資型クラウドファンディングの世界的拡大と規制の関与」『公共政策学会年報』（公共政策学会）査読有、第15号、2015年

12.松尾順介「英国の投資型クラウドファンディング規制」『証研レポート』（日本証券経済研究所・大阪研究所）、査読無、No.1692、2015年10月、10～21頁

13.松尾順介「クラウドファンディングの世界的成長と投資型クラウドファンディングの課題」『季刊個人金融』（一般財団法人ゆうちょ財団）査読無、第10巻第2号、2015年8月

14.松尾順介「ソーシャルインパクト債導入の課題」『計画行政』（日本計画行政学会）査読有、第38巻第3号（通巻124号）、2015年8月、7～12頁

15.松尾順介「わが国のクラウドファンディング規制の現状」『証研レポート』（日本証券経済研究所・大阪研究所）査読無、No.1690、2015年6月、1～19頁

16.松尾順介「投資型クラウドファンディングの現状と地域再生における課題」『新都市』（都市計画協会）査読無、第69巻第4号、2015年4月、（31～35頁）

17.松尾順介「クラウドファンディングと証券業」（証券経営研究会編『資本市場の変貌と証券ビジネス』日本証券経済研究所、査読無、2015年3月、68～114頁）

18.松尾順介「クラウドファンディングの可能性」『証研レポート』（日本証券経済研究所・大阪研究所）、査読無、No.1687、2014年12月、25～51頁

19.松尾順介「クラウドファンディングと地域再生」『証券経済研究』（日本証券経済研究所）査読有、第88号、2014年12月、17～39頁

20.松尾順介「企業再生ファンドの現状 - 地方

再生ファンドを中心に」（事業再編実務研究会編『あるべき私的整理手続の実務』民事法研究会、2014年9月、第4章、所収）査読無、108～127頁

21.松尾順介「東日本大震災における被災企業のバランスシート改善と金融機関・ファンドの役割 私的整理による事業再生を念頭に」（下）（共著者：田頭章一・中野瑞彦）『証券経済研究』、日本証券経済研究所、査読有、第87号、2014年9月、23～39頁

22.松尾順介「クラウドファンディングの投資家と地理的分散」『証研レポート』（日本証券経済研究所・大阪研究所）査読無、No.1685、2014年8月、1～15頁

23.松尾順介「東日本大震災における被災企業のバランスシート改善と金融機関・ファンドの役割 私的整理による事業再生を念頭に」（上）（共著者：田頭章一・中野瑞彦）『証券経済研究』、日本証券経済研究所、査読有、第86号、2014年6月、17～37頁

24.中野瑞彦「アベノミクスと銀行経営」『金融構造研究』（地方銀行協会）査読無、第36号、2014年5月

25.松尾順介「海外におけるクラウドファンディングの現状」『証研レポート』（日本証券経済研究所・大阪研究所）査読無、No.1683、2014年4月、8～26頁

〔学会発表〕（計 3 件）

1. 中野瑞彦「Financial Crisis and Bank Management in Japan: 1997-2016」信用理論研究学会（関西部会）2017年03月18日

2. 中野瑞彦「英国の住宅価格の上昇と新たな金融危機の可能性」証券経済学会（関西部会）2016年03月05日

3.松尾順介「投資型クラウドファンディングの現況と規制の動向」、証券経済学会（関西部会）2015年10月10日（共同報告者：梅本剛正）

〔図書〕（計 1 件）

1. Mitsuhiro Nakano "Financial Crisis and Bank Management in Japan:1997-2016" Palgrave Macmillan, Dec.2016 184p

6 . 研究組織

(1)研究代表者

松尾 順介 (MATSUO, Junsuke)

桃山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：00330340

(2)研究分担者

中野 瑞彦 (NAKANO, Mitsuhiko)

桃山学院大学・経済学部・教授

研究者番号：10368384